

2016 年度活動報告 CJP 授業：総合日本語 5

牛窪 隆太（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

現代日本プログラム日本語専攻コースで学ぶ中級後半から上級前半の学生を対象に2クラス同時開講し、それぞれ週に3コマ（90分）実施した。教科書を基にテキスト本文の読解、語彙や表現文型をクラス内でのやり取りを軸としながら進め、中級後半レベルの日本語運用力の定着を図った。教科書は『「大学生」になるための日本語①』（ひつじ書房）の1課から9課までと2巻の3課分を抜粋して扱った。語彙については予習シートを配布し自律的に学習を進めることとした。

2. 授業内容

授業は以下の順序で一課あたり3コマから4コマで進めた。①語彙の意味と使い方の確認。②本文速読。③表現文型の練習。④本文読解。各学習活動には、協働学習の考え方と方法論を取り入れ、クラス内のペア活動を多く実施した。表現文型は意味がわかるだけではなく、実際に使用できるようになることを目標とした。使用テキストにルビがなく、非漢字圏の学生にとっては大きな負担になることが予想されたこと、また、各クラスで日本語の運用力や意欲に差が見られたことから、学期途中からは、大枠は共有しつつ、各クラスに合った活動を盛り込んだ。

3. 成果と今後の課題

テキスト本文の内容について自分の言葉で説明できるようになること、また表現文型についてもアウトプットを重視したことから、口頭でのやり取りについては、いずれの学生も日本語力の向上を実感しているようであり、授業評価も概ね好評であった。その反面、テキストについて、使用される語彙と表現文型に難易度の差が見られることから、より難しい表現文型を学びたいという声も聞かれた。また、クラス内でペア活動を行うことについて、時々は一人で学習したい、時間がかかりすぎるなど、比較的日本語力の高い学生からは、異なる活動方法を求める声も聞かれた。表現文型を覚えるのではなく運用するクラスであることは繰り返し説明したが、学習活動に表現をより意識的に位置づける必要がある。また、読んで話すという活動内容により多くのバリエーションを与えることも今後の課題として検討していきたい。